Contents

2　総長メッセージ
3　数字で見る京都大学
5　国際卓越研究大学として
7　ガバナンス
9　教育
11　研究
13　共創
15　DEIB
17　グローバル展開
18　医学部附属病院
19　課外活動
21　財務情報
25　同窓会・基金



総長メッセージ　京都大学をご支援いただいている皆様へ

―自由の学風を礎とする京都大学に新たな学術基盤を築く―

国際卓越研究大学としての新たな一歩とデパートメント制の推進

京都大学は1897年の創立以来、自主性を重んじる「自由の学風」のもと、世界を牽引する独創的な研究活動を展開するとともに、対話を根幹とする自学自習を通じて創造的精神を涵養する教育に努めています。2026年7月、本学は国際卓越研究大学に認定され、研究等体制強化計画の認可を受けて、新たな一歩を踏み出しました。本計画では基本理念のもとで以下のビジョンを掲げています。

・自由で独創的な研究による知の創生によって、社会の多元的な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出に貢献
・世界のアカデミアを牽引する優れた研究者とグローバルに活躍する高度な専門能力を有する人材を養成・輩出
・国際社会に開かれた総合大学として、世界から多様な人材が集う国際的な知の拠点(ハブ)を形成

自由の学風を礎とする京都大学に新たな学術基盤を確立し、これらのビジョンの実現を目指します。その土台となるのが、研究力の向上を目的とするデパートメント制の導入とそれに基づく研究体制および教育システムの整備・充実です。

人と人とのつながりから新たな知を生み出す

本学は総合大学として、多様な分野において独創的な研究を展開し、新たな知を生み出してまいりました。それらの知は学術の発展に寄与し、社会課題の解決に貢献するとともにイノベーションの源泉となっています。こうした実績が国内外から優秀な研究者や学生を惹きつけ、さらなる知の創造と新たな研究者や高度人材の輩出を生む好循環を形成してきました。この人と人とのつながりから知を生み出す好循環が京都大学の強みであり、未来を切り拓く原動力です。

こうした取り組みを着実に遂行するためには、基盤的経費の確実な維持に加え、自律的な財政基盤の強化が不可欠です。本学の独創的な基礎研究を深化させる産学連携やスタートアップ創出、ファンドレイジング(基金拡充)を力強く推進し、財務・経営改革を進めてまいります。あわせて、大型研究設備等のコアファシリティを地域・他機関へ広く共用化するなど、社会や地域とともに成長するオープンな知の拠点としての役割を果たしてまいります。

おわりに

本レポートでは、京都大学の教育・研究活動の成果と挑戦、そして大学運営を支える財務状況についてご紹介しております。日頃、本学の活動をご支援いただいている皆様におかれましては、本学の取り組みをご理解いただき、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2026年11月
京都大学総長　立川康人